

デジタル戦略

CIO・CDOメッセージ

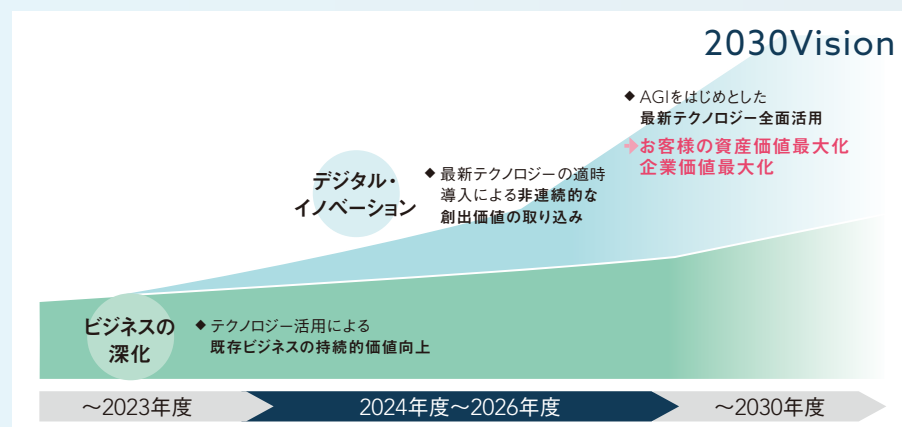
新NISA制度の浸透など資産運用立国の実現に向けた動きが加速するなか、金融機関には顧客本位の業務運営と、お客様の最善の利益に適った商品・サービスの提供が一層強く求められています。

当社グループは、こうした環境変化を中長期的な構造変化と捉え、中期経営計画“Passion for the Best” 2026のグループ戦略骨子「デジタル・イノベーションの追求」のもと、「富裕層向けビジネスモデル変革」「資産形成層向けビジネスモデル変革」「デジタル・イノベーション」の3つのデジタル戦略を柱とし、推進しています。

2026年度は現中期経営計画の最終年度を迎え、デジタル戦略の目標を完遂するとともに、この3年間のデジタル投資の成果を事業収益の本格的な拡大につなげるフェーズに入ります。その実現に向け、当社グループはAIへの積極的な投資と実装を推進しています。AIは、オンラインと対面双方の強みを融合し、多様化するアドバイスニーズに対応することで、より質の高いサービスをより多くのお客様に提供する基盤となっています。

また、「お客様と向き合う時間の創出」を軸に業務改革を進め、営業員の業務可視化と先端テクノロジーの活用による効率化で、質の高い提案と信頼関係の深化、資産価値の

デジタル戦略による社会提供価値向上イメージ



最大化につなげています。さらに、資産形成に新たに関心をお持ちのお客様からのお問い合わせが大きく拡大したことに対応するため、一般的な事務手続きや株価照会へのAIオペレーターによる自動応答を導入しました。これにより、オペレーターがより高度な相談や付加価値の高いサービスに注力できる体制を整えました。

「攻め」に加え「守り」の投資も重要な柱です。パスキー認証の導入やサイバーセキュリティ体制の高度化、災害リスクを踏まえたデータ・インフラ基盤の強化を通じ、お客様の資産・情報を保護する体制を強化しています。とりわけ、生成AIなどの先端技術の進歩に伴い、サイバー攻撃や情報セキュリティリスクは多様化・巧妙化しています。当社グループではこれをトップリスクのひとつと定め、専担の統括部署を新設するとともにグループCISO (Chief Information Security Officer)を設置し、ガバナンス体制を強化しました。成長投資とリスク管理の両立こそ、持続的な成長と企業価値向上の前提と考えています。▶ P.92 システムリスク管理

また、データ管理を担うCDOとして、データガバナンスの高度化を重視しています。AIの本格活用を前提に、データ構造の再設計やアクセス権限の見直しを含め、AIが安全かつ適切にデータを扱えるようガバナンス態勢を整備し、お客様の情報を守る土台としています。

そして、これらの取組みの原動力となるのが人材です。新たな価値を生み出す力と、AIを安全かつ適切に活用しお客様の信頼を守り抜く力をあわせ持つ人材こそ、デジタル戦略を支える最大の源泉です。高度デジタル人材の育成と全社員のデジタルリテラシー向上を通じ、人とAIがともに価値を創造する組織へと進化していきます。

当社グループは、2030 Visionの実現に向け、デジタル投資の成果を着実に顧客価値へと転換し、次期中期経営計画ではAX／DXによる事業変革を一層加速させます。デジタル・イノベーションを通じて「お客様の資産価値最大化」と企業価値向上の好循環を強化し、社会から信頼され持続的に成長する証券グループであり続けます。



大和証券グループ本社
常務執行役
情報技術担当(CIO)
兼 データ管理担当(CDO)
村瀬 雅裕